

たかけい学報

Bulletin of Takasaki City University of Economics

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

特集

海を越えて見える“セカイ”

—「助成金付き留学」ノススメ—

no.88



特集

海を越えて見える“セカイ” —「助成金付き留学」ノススメ—

海外旅行が身近になり、近年、“留学”という言葉も身近になりつつあります。しかしこの数年、それまで伸びていた留学生数が突然減少し始め、若者の内向き志向が囁かれています。また、留学をしたい人でも長い不況で多額の費用を準備するのに時間がかかったり、断念せざるをえなかったり、思うようになりません。そんな中、少しでも費用負担を軽減し、より多くの本学学生に留学を体験して欲しい、これをきっかけに日本だけでなく、世界に通用するような社会人を目指して欲しいという思いから、昨年、本学では「海外語学研修支援制度」を開始しました。短期、長期留学に一定金額の助成金を配布する制度です。そして昨年は141人もを受給者＝留学生を送り出しました。恐らく昨年の本学留学生数値は、近年の日本で見られる減少傾向とは全く違ったグラフを描くことになるでしょう。そして今年度は更に採用者への支援を充実させる予定です。他の大学には無いこの制度で、より留学が身近になった高経大。あなたも留学体験をしてみませんか？

CONTENTS

- 1-2 特集「海を越えて見える“セカイ”-「助成金付き留学」ノススメ-
- 3-4 留学、日本の事情
- 5-6 大学が行う留学助成金サポート
- 7-8 留学はトラブルだらけ？
- 9-10 留学体験記「聞く力が自信に変わる！世界へ飛び出したワタシ」
星野 瑞歩さん
- 11-12 学生クローズアップ「独学の英語力で挑んだ全国大会」
英語研究部 (E.S.S.) 菊池 貴之さん
- 13-14 「あの日、あのころ、あの時から。⑥」
—私を救ってくれた海外留学 今度はこの手で伝えたい—
森田 英利子さん
- 15-16 終わりに
- 17 ふるさとを語る日本編 その29 京都府京丹後市
「千年の都の知られざる一面
広大な砂浜が織りなす臨海部」
坪倉 貴洋さん
- 18 ふるさとを語る海外編 その28 ドイツ
「個性が確立された魅力的な国・
ドイツから見た日本とは」
ヤニック ブルヤーさん
- 19 文化サークル協議会紹介 平野 優太さん
- 20 体育会本部紹介 平塚 諒さん
- 21-22 たかけいグラフィティ
菊池 那弥さん、吉田 祐貴さん、佐藤 夏輝さん、
阿久沢 小春さん、遠藤 将光さん、
速水 千晶さん
- 23 写真部が行く⑩
「少林山達磨寺」飯沼 晃也さん
- 24 体育会 no.72「直心影流剣道部」
大槻 純平さん
文化サークル協議会 no.73「観光研究部」
鶴野 将平さん
- 25-26 たかけい INFORMATION



留学、日本の事情

留学は面倒。高校生に行った調査で多かった理由の一つです。一時期人気のあった海外留学が、なぜこのように思われるようになったのでしょうか。反面、中国、韓国、インドなどのアジア各国は、年々多くの留学生を海外に送り出しています。なぜ日本だけ留学気運が下がってしまったのでしょうか。

若者は内向き？

かつて、海外留学があこがれの時代がありました。そして、いつしか望めば留学が夢ではない時代になり、多くの学生が海外を経験しました。ところが近年、留学に対して消極的な学生が多いといわれます。

(図1) 実際に留学体験をした学生を数値で見ると、データのある1983年から86年まではやや減少し1万4千3百人程ですが、そこから2004年まではほぼ増加傾向にあり、18年間でおよそ6倍の8万3千人近くになりました。➡

その後減少を始め、2010年では5万8千人と、ピーク時の70パーセントまで落ち込んでいます。

(図2) 一方、日本人の海外出国者を見ると、2000年までは留学生と同様の伸びを見せ、2003年、アジア地域で猛威を振るった新型コロナウイルス「SARS」の影響からくる急激な落ち込みや、2008年のリーマンショックでの景気低迷を原因とする減少がありながらも、比較的横這いが続き、2012年は過去最多の1千8百50万人程が海外に出ています。このことから、日本人全体が海外を敬遠している訳では無く、

“留学”という手段が敬遠気味であるようです。財団法人日本青少年研究所が、2011年に日米中韓4カ国の高校生に行った調査では、留学を希望する日本人は46.1パーセントという結果が出ており、4カ国中最も低く、また、そのうち面倒だから38.5パーセント、日本が暮らしやすいが53.2パーセントといった内向きな回答が多くみられています。

減る日本人留学生

(図3) 留学生数が減少する中で、日本人が最も留学先として選択して

いるのがアメリカです。日米教育委員会が行った「アメリカ留学志望理由に関する調査」では、①国際性を身につけ視野を広めたい、②語学を身につけたい、③アメリカの大学で学ぶ経験をしたい、④様々な人々との交流を通じてネットワークを築きたい、⑤留学経験を将来の仕事に役立てたい、という理由が過去5年間の留学先にアメリカを選ぶ上位5点でした。しかし、2003年頃から急激にアメリカ留学は減少し、2010年では2万1千人、最新の2011年 ➡

図1「日本人の海外留学推移」(文部科学省調べ)

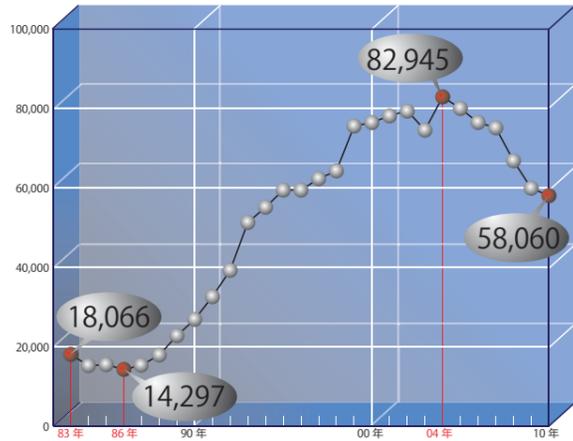


図2「日本人海外出国者数推移」(国土交通省調べ)

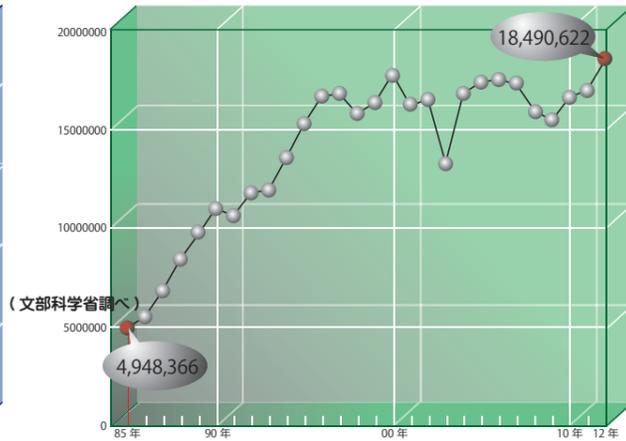


図3「日本人のアメリカ留学推移」(日本教育委員会調べ)

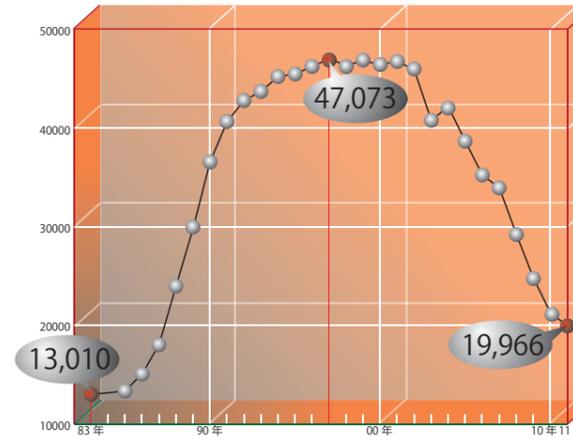


図4「外国人留学生推移」(日本学生支援機構調べ)



表1「日本人の海外留学先 2010年」(文部科学省調べ)

国・地域	留学者数		対前年比	
	() 内は前年数	() 内はパーセント	() 内は前年数	() 内はパーセント
アメリカ合衆国	21,290	(24,842)	-3,552	(-14.3)
中国	16,808	(15,409)	1,399	(9.1)
イギリス	3,851	(3,871)	-20	(-0.5)
オーストラリア	2,413	(2,701)	-288	(-10.7)
台湾	2,302	(2,142)	160	(7.5)
ドイツ	2,135	(2,140)	-5	(-0.2)
カナダ	2,097	(2,005)	92	(4.6)
フランス	1,743	(1,847)	-104	(-5.6)
韓国	1,147	(989)	158	(16.0)
ニュージーランド	988	(1,025)	-37	(-3.6)
その他	3,286	(2,952)	334	(11.3)
計	58,060	(59,923)	-1,863	(-3.1)

データでは、とうとう2万人を切りました。

(表1) 2010年データでは、何とかアメリカが1位を保っています。前年と比較すると、韓国への増加、併せて中国や台湾などアジア圏

への増加が目立っています。また、その他の国も増えていることから、今までの「海外＝アメリカ」という図式が崩れてきているようです。

1994年から97年までは、アメリカ国内で日本人留学生数は第1位でしたが、現在は中国やインドの留学生が急激に増えた上、日本の留学生総数が減少したため、2010年では第7位へ下降しています。

増える外国人留学生

前出調査のうち、留学への意識が最も高いのはお隣の国、韓国の82.2パーセントでした。韓流ドラマでは主人公が海外に留学することを決断し、一乱。といったその世相を反映するようなテーマをよく見かけます。そして、日本での韓国留学生数は現在1万7千人で、1番多い中国の8万6千人にかなり水をあけられています。2番目に多い国です。

(図4) 日本人が海外へ目を向け始めた同時期から、日本に来る外国人留学生も増え始めます。 ➡

1983年は1万人程度でしたが、2010年には14万人を超え、17年あまりでおよそ14倍に増えています。2011年は東日本大震災の原発事故の影響で1万人近く減少しましたが、また増加しつつあるようです。

国は海外留学を促進

「国際的な競争環境の中での国際的通用性のある人材の育成や受け入れと同様に人的ネットワークの形成による相互理解と友好関係の深化が世界中の安定と平和に資するといった安全保障の観点、大学等の教育研究水準の向上など重要な意味を持つ

もの」というのが国の考え方で、国は海外留学を促進しています。

もう一方で外国人留学生の受け入れも更に推進しており、2008年に「留学生30万人計画」を掲げています。2020年を目途にしたもので、当時の留学生数10万人強を、12年後におよそ3倍に増加させるという計画です。これは、海外からの優秀な人材を受け入れるだけでなく、相互交流から世界で活躍できる優秀な日本人の育成を視野に入れた政策でもあります。

面倒と思う理由

とはいえ、下がり続ける留学気運

には何か理由があるのでは。ある人は、いくつかの要因を挙げています。少子化、国内大学の国際化、ネットの利用で世界の情報が容易に手に入る、企業が留学経験をあまり評価しなくなった、就職活動の前倒しで留学すると不利になる、日本の居心地の良さ…などです。若者に面倒と思わせる要因は、若者の責任では無く社会構造が変わったからなのではないかというものです。

こうした状況に国は、大学の優れた留学プログラムを支援する取り組みや奨学金制度の推進、アカデミック・イヤーの違いを諸外国に併せる秋季入学の検討をしています。

留学はトラブルだらけ？

近年、海外で日本人が事件に巻き込まれた事を報じるニュースをよく耳にします。世界的にも安全な国といわれ、まだまだ国際社会に閉鎖的な感もある“島国”に住む日本人が海外に出た際、どのような気構えが必要になるのでしょうか。

アンケートに見る留学の不安やトラブル

いざ留学を決めても、色々な心配事が後を絶ちません。行くまでのこと、行ってからのこと、とにかく初めてだらけで期待と希望、不安でいっぱいです。期待と希望については留学体験者のレポートをご覧いただき、ここでは、留学生が感じた不安や体験したトラブルについて、アンケートを基に紹介します。

留学前は全てが不安

お小遣いや生活用品はどの程度必要かなど生活への不安、ホストファミリーと仲良くできるか、友達ができるかなど環境への不安、とにかく、全てが初めてなので全てが不安です。

体験したことのない環境はとて不安です。多くの不安は飛び込んでしまえば自ずと分かるものですが、ホームステイの場合はホストファミリーとの関係に不安を感じる人が多いようです。ホストについても面倒見の良い人、あまり干渉しない人などそのタイプはそれぞれですが、家族の様に迎えてもらえ、別れが辛かったという感想が多数ありました。

語学力不足

“留学前にもっと勉強しておけば良かった”。留学経験者が最も声を揃えるのが、自分の語学力不足です。日本人は普段から英語を用いる習慣が無いので、最初は会話に気後れする人が多いようです。

留学中は英語を使わなければ生活もままなりません。多くの留学生が語学力というより会話力が足りないと思うようで、多少間違ってもいいから、とにかくたくさん会話しようと思ったり、日本人で固まらず、現地の人と会話するよう心掛けたと答えています。場慣れることでいつしか段々自信も付いて、現地の友達ができるとより留学生在活が楽しくなります。

生活習慣の違い

食事が口に合わない、洗濯が週1度しかできない、電車やバスが時間通りに来ないなど、多くは生活習慣、自分の今までの生活スタイルの違いから生まれます。これが要因でホームシックになる人もいます。

衣、食、住。最初は違和感を感じるようですが、慣れてくると新たな自分のスタイルが見えてくるそうです。どうしても環境に馴染めない場合は、一人で塞ぎ込まないでください。友達や留学先の教職員、ホストファミリーなどに相談しましょう。当然、電話やEメールも使えますので、日本の保護者、大学教職員などに相談もできます。

学生グループ学生支援チームでは、留学体験者にアンケートと報告書の提出をお願いしています。次に留学に向かう学生たちにより良い形で活かせるよう、体験したばかりの生の声を集めています。その中で多かった3つの内容をご紹介します。

#アンケート回答内容の一部

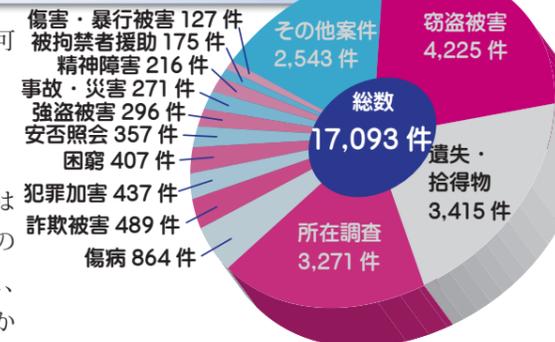
- ・日本人は会話は苦手だが文法などのテストは他のアジア人より圧倒的にできる
- ・ホストファミリーによって対応に差が出る
- ・人々との交流から英語を学んだ
- ・留学をきっかけに使える英語を改めて学ばなくなった
- ・日本での生活より積極的に行動的になった
- ・経験が自信に繋がった
- ・英語を話す事への抵抗感がなくなった
- ・とりあえず伝えてみようという前向きな気持ちを持てた
- ・自分の意見を相手に伝える大切さを学んだ
- ・コミュニケーションの楽しさ、大切さを学んだ
- ・語学力はもちろん、人間的にも成長できた
- ・電子辞書は欠かせない
- ・言葉がうまく通じない分、色々な思いや努力を通じて得たものはたくさんあった



事件・事故・災害、遭遇しないとは限らない

今や世界各地どこへ行っても日本人がいます。2011年10月現在でおよそ118万人以上の日本人が海外で暮らし、旅行や留学などで出国する日本人はなんと年間1800万人以上。(外務省調べ)日本の総人口1億2千800万人のうちの1割以上が年1回、国外に出ている計算になります。当然、事件や事故に遭遇する率も高くなるわけです。日本の在外公館から報告があった海外での日本人援護件数は2011年で17,093人に上ります(図1)。また、その被害のうち4千人以上が、学生の年齢が含まれる29歳以下の若者でした(表1)。

図1「2011年海外日本人事件別援護件数」



まずは自分で防犯を

不安を抱いてもどうにもならないことも起こります。それが、事件、事故、災害などです。しかし、この様な事でも未然に防いだり、不測の事態に備えることはできます。

海外では日本人旅行者がスリ、置き引きのターゲットになりやすいといえます。日本でも最近は目を離した際に金品が無くなっていったというが増えつつありますが、外国人の目からはまだまだ多くの日本人が隙だらけに見えるのかもしれませんが。特に観光地では、身に着けているものでもすられたり、時には強引に奪われることなども頻発します。

長財布をお尻のポケットから出さない、リュックに貴重品を入れて背負わない、夜道を一人でフラフラしないなど、自分自身で基本的な防犯を心掛けることで、このような窃盗被害などの遭遇率は軽減します。

留学先の情報収集を

外務省は世界の危険度合やウィルスの伝染状況などをインターネットの「海外安全ホームページ」で公開しています。各国別で安全対策基礎データとして、犯罪の発生状況や防犯対策、風俗、習慣などに加え、緊急時の連絡先も掲載されています。自分が渡航したい地域の安全レベルを確認した上で、留学先や留学日程を調整する、また、渡航先でも必要

時に改めて確認するということも可能です。

万一のために...

それでも予測不能な事件、事故は起こり得ます。JTBグループのジェイアイ傷害火災保険によると、保険加入者の28人に1人が何らかのトラブルに巻き込まれているとのこと。このような、海外留学生者のトラブル対応のための保険を取り扱う保険会社も多くあります。有事の際に備えて障害保険に加入するのも手段の一つです。3カ月以上で3万円程度から、1年間で10万円前後と高額ですが、怪我や病気だけでなく、盗難や損害賠償などにも対応するタイプもあります。長期の場合は後援会の助成金10万を保険に充てるという考え方もできます。

緊急連絡先を知ろう

大学の支援制度では、旅行業者のプログラムも紹介しています。紹介する留学先は現地に代理店やスタッフを置いているケースが多く、渡航時の様々な手続きはもとより、渡航先でのトラブルにも対応してもらえます。また、大きなトラブルや緊急時の際は、この様な旅行業者も含め、現地日本大使館や総領事館に連絡しましょう。被害が大きくならいうちに、早めに助けを求めましょう。現地大学や本学なども含め、自身の関わる方々への報告も忘れずに。

表1「29歳以下の被害件数」(単位:人)

	全事項(事故・災害・事件)	犯罪加害	犯罪被害	傷病	困窮	遺失・拾得物
アジア	1,445	37	441	41	87	478
太平洋	338	7	124	6	3	117
北米	851	47	235	11	9	300
中南米	183	5	123	8	2	17
欧州	1,169	7	702	15	16	293
中東	75	1	23	1	4	13
アフリカ	140	0	39	6	1	1
計	4,201	104	1,687	88	122	1,219

「外務省海外安全ホームページ」
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

The screenshot shows the homepage of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, specifically the Overseas Safety section. It features a navigation menu with 'トップページ' (Home) and '渡航情報を調べる' (Check travel information). The main content area includes a search bar for countries/regions, a list of important notices (e.g., '安全対策基礎データ・テロ概要の更新履歴一覧'), and a world map highlighting various regions like Asia, Europe, Africa, and Oceania. The page is designed to provide comprehensive safety information for Japanese citizens traveling abroad.



留学生体験記

聞く力が自信に変わる！ 「世界」へ飛び出したワタシ

経済学部 4年
星野瑞歩さん

私が留学を決意した理由は、ある新聞記事がきっかけでした。そこには、ある大手企業の記事で「新卒者の応募資格に TOEIC730 以上」とありました。元から英語自体は苦手ではなかったのですが、ものすごく単純な私はその記事にすごく自分のやる気を駆り立てられ、留学への思いが日に日に強くなりました。しかし両親を説得するのは簡単なことではありません。それもそのはず、1年間卒業が遅れてしまうというデメリットが生まれてしまうからです。長い説得の結果、ようやく両親は留学を許可してくれました。

それから、私の留学への準備がスタートしました。まずは学校探しからです。私の場合、同じ部の先

輩に留学経験者がいたのでアドバイスを頂き、信頼のおける語学学校を選ぶことができました。またイギリスのロンドンで半年以上の留学ということだったので、無事に学生ビザも取得し、いよいよ留学が現実味を増してきました。

渡航当日、不安と希望と期待とを抱えながら日本を去りました。私の留学プランは1カ月はイギリスのプリストルで過ごし、残りの8カ月はロンドンというコースでした。ロンドンヒースロー空港から車で約2時間、プリストルでのホストファミリーの家に着きました。最初、ホストマザーが話していることが全くと言っていいほど聞き取れませんでした。英語に若干の自信はあっ

たものの、この時のショックは今でも忘れられません。そこからプリストルでの1カ月の生活がスタートしました。私が割り振られたクラスのレベルは日本であらかじめテストを受けた結果から「C1.3」というレベルでした。日本の皆さんはこのレベル分けにあまり聞き覚えがないと思いますが、通常ヨーロッパの語学学校では次のようなレベル分けがなされます。A1(Elementary 初級)、A2(Pre-Intermediate 準中級)、B1(Intermediate 中級)、B2(Upper-Intermediate 中級上)、C1(Advance 上級)、C2(Upper-Advance 上級上)の6つですが、その中の上級クラスに割り当てられたのです。授業初日、先生の言っていることすら理解できなくて本当に泣きそうになりながら授業を聞いていました。1週間頑張ってみると、現地のオフィスの方に言われたけれども次の週からクラスを一つ下げることにしました。それから何とかついていくことができました。クラスにもなじむことができ、徐々に楽しみを感じることができました。プリストルの校舎には日本人が全体の5%以下程で、ほとんどがヨーロッパからの生徒で占めていました。英語学習の環境としてはとてもよいものだったと思います。あっという間に1カ月は過ぎ、お別れの時がやってきてしまいました。最初はコミュニケーションすら危うかった私ですが、そのころには徐々に理解できるほどに耳が慣れていました。短い間でしたが、私のことを本当の娘のように扱ってくれたマザーとお別れするのはとても後ろ髪を引かれる思いでした。

ロンドンからの学校のコースは1ヶ月間ビジネスイングリッシュを、残りの期間はジェネラルイングリッシュを選択しました。プリストルと違い、学校の規模も大きく、様々な国の友達を作ることができました。そこで出会った友達とは今でも連絡を取り合っており、お互いの国に遊びに行こう！と話したりもしています。

私が通っていたEFという学校は、世界的に語学学校を展開していて、あらゆる英語圏の国にあります。また他の国に変更することも可能で、ロンドンに飽きたとか、もっと他の国を見てみたい！といえば変更することも可能です。学校では様々な目的をもった人たち

と出会えるので、自分の視野や概念を覆されることが多かったです。EFでは、長期の学生向けのプログラムがあり、他ではあまりないシステムを導入しています。入学日、卒業日が決まっており、4月に出会った友人たちとは同じ日に卒業できます。それも有り、卒業式の日には皆と別れる悲しみでいっぱいでした。

語学学校も終盤に近付いた頃、ロンドンでTOEICを何回か受験しました。渡航前にも何回か受けていましたが、その時の点数から200点以上もアップしました。

この9カ月間は、私にとってかけがえのないとても充実したものとなりました。この留学が実現したのも両親のおかげです。留学においては、ただ「留学したい!」「英語が好きだから」などの理由では成功しません。思い立ったら行動というのは悪くはありませんが、重要なのは留学して何をしたいのか、どのような目的があるのかということだと私は思います。留学を考えた時点から、その先にある明確な目標・目的を掲げることとはとても大切なことです。これは、私自身が留学して感じたことです。実際自分の中で過剰な自信があったことから、最初の1カ月間は地獄のようでした。渡航先に向かう前から、かなりの努力が必要であると思いました。

留学を終えて、ネイティブとまではいかずとも、自分の言いたい事は伝えられるようにはなりました。英語には日本語と同じで、色々なアクセントがあり、英、米、豪などでアクセント、使う単語もかなり変わります。その中でもブリティッシュのアクセントは日本人には聞き取りにくく、あまりクリアではありません。そのため、格段にリスニング力が上がりました。私は他言語を学ぶにあたって一番重要なことは、「聞く力」だと考えています。何を言っているのか解らなかつたら、会話も成立しません。その点で、どんな英語を身につけたいのかで選択する国も変わってくると思います。

今回の留学は、自分を成長させたとても充実したものでした。この経験を生かした職に就けるよう、これからの就職活動では頑張っていきたいと思います。



勉学、部活動、趣味、etc。本学に集う学生でも、多種多様な生活があります。その中で、気合いを入れて頑張る学生達の一端をレポートし、あなたの学生生活にスパイスを与えるためのコーナーが、この「学生クロージャップ」。今回は、数々の全国英語弁論大会などに出場し、優勝を始め優秀な成績を収めている英語研究部(E.S.S.)をピックアップ。優秀な人材を数多く抱え、自身も優勝経験のある代表の菊池さんにお話をうかがいます。



独学の英語力で挑んだ全国大会

THE 62ND ANNUAL ENGLISH ORATORICAL CONTEST FOR THE TAKASAKI MAYOR'S TROPHY



英語研究部 (E.S.S.)
 経済学部 4年 菊池 貴之さん



E.S.S.メンバーが行った留学の様子。



津田塾大学梅子杯争奪学生英語弁論大会の受賞者たちと



部活の一大イベント「高崎市長杯英語弁論大会」の運営後、メンバー全員と。



東日本大会の即興スピーチ。

E.S.S.とその活動とは？

高経 E.S.S. (英語研究部) は関東学生英語会連盟に所属し、現役部員は 60 名以上と文化系サークルの中でも最大クラスの団体です。部員はスピーキング能力や TOEIC スコアの向上を目指し、日々の活動に力を注いでいます。またスピーチの全国大会である「高崎市長杯英語弁論大会」の運営や、夏季英語合宿など全体での活動も盛んに行っています。

E.S.S. 内は大きく分けて 5 つのセクションがあります。一つはベーシック・カンパセーションセクションと言い、部員全員が所属し、活動は主に英語での日常会話の練習をします。他にはディベート、ディスカッション、スピーチといったスピーキング競技を扱う三つのセクションとアドバンスト・カンパセーションという TOEIC スコアの向上を目指すセクションがあります。

E.S.S. ≠ 海外留学サークル

英語研究部と聞くと、「みんな海

外に行き英語を勉強している」というイメージを持つ方がいますが、実際はそうでもありません。近年始まった大学の「海外語学研修支援制度」を利用して留学に行った部員も多くいますが、それでも現役生で海外留学経験のある者は全体の二割にも満たない程度です。しかしそうした海外経験をせずとも、E.S.S. では定期的に英語を使う活動を行い、英語を学習するきっかけを多く作ることで、英語力の向上とモチベーションの維持を図っています。

海外経験はなくても優勝できる！

私は三年間、スピーチ活動に力を注いできました。英語スピーチは自由にテーマを設定し、7分程度にまとめたものを発表します。壇上への原稿は持ち込み不可のため、原稿をほぼ暗記してスピーチに臨みます。また発表後は審査員からの質疑応答があり、評価項目にも含まれます。

始めた当初は、英語の上手な帰国子女には勝てないだろうと思ってい

ました。しかし海外経験の無い私でも、三年間継続し続けた結果、全国規模の大会で優勝することができました。例え英語を完璧に話したり、聞いたりできなくても、日本に居ながらネイティブと意思疎通する力は十分養えると実感しました。

私たちはどうしても英語を綺麗な文法で流暢に話すことばかりに目が行きがちです。しかし私は「きちんと自分の考えが相手に伝わるよう話すこと」が外国語を話す上で大切なことだと強く感じました。

今後は培った語学力を生かせる仕事に就きたい気持ちはありますが、今の語学レベルではビジネスで英語を使用できる程にはまだまだ及びません。残り少ない大学生活を活用し、短期留学なども視野に入れながら、在学中に語学力に磨きをかけ、キャリア選択の幅を広げていきたいと考えています。





森田 英利子 さん
今回の卒業生は

「私を救ってくれた海外留学
今度はこの手で伝えたい」

「あの日、あのころ、 あの時がら。」

二〇〇六年卒業、48期経済学部経営学科生の森田さんは、今の自分、そして将来の職業を決める上で重要なターニングポイントとなる海外留学を学生時代に経験しました。そこで、見聞きしただけでは得られない、生きた情報や現地の人々との出会いなど、数えきれない人生経験を積むことになったのです。
その中で今回は森田さんに学生時代での海外経験の大切さや、在学生へ送るメッセージなどを自身の体験も交えながら語っていただきました。



海外での体験が取り戻してくれた「生きていく力」

高校卒業後、自分が本当にやりたいことや進みたい道がわからず、2年間を悩んで過ごしました。両親や周りへの申し訳ない気持ちや焦りで閉じこもっていた時代に、友人にタイをバックパックでまわる旅に連れ出してもらいました。

初めての海外。世界にはたくさんの素晴らしい景色があり、様々な人が様々な価値観の元で生活していること。頭では分かっている事ですが、実際に行ってみたり聞いたりしたことは本当に自分を大きく変えました。寒ざんでいた自分に、もっと前向きに人生を楽しんでいきたいという気持ちが芽生えました。

姉妹校への留学を思い切り楽しんだ大学生活

経済を通して世界を学んでみたい、海外姉妹校があり、できれば留学を経験したいという思いで高経へ。2年時にアイルランド姉妹校への短期留学に申し込みました。3ヶ月間はあっという間で、美しい自然と素朴で独特な文化を持つアイルランドでの生活は本当に楽しいものでした。

4年の秋にドイツ姉妹校へ。1名での参加で不安でしたが、現地の学生に本当に親切にしてもらい、たくさんの友人ができました。またヨーロッパ各地を巡る旅に出て素敵な景色と出会うとともに、つたない英語でも乗り物や宿を手配する根性を身につけました。

前向きな人生をくれた「旅」の楽しさを多くの人に伝える仕事

自分を大きく変え、救ってくれた「旅」を提供する側になってみたい。その一心で旅行会社への就職を決めました。現在担当している法人営業では、団体旅行を中心に語学研修や大会、個人旅行等、様々な旅行に関する商品を取扱っています。実際に旅行会社の仕事をしてみて思ったことは、ひとつの旅行が無事に完結するためにはたくさんの人々や関係機関が関わっているということ。チームや支店の皆で協力してツアーを作り上げ、お客様に「楽しかった、ありがとう！」と言って頂けた時はやりがいを感じます。

また母校での語学研修プログラムを提案させて頂き、学生の皆様の海外への第一歩をお手伝いさせて頂いていることに感謝しております。

在学生のみなさんへ

私が海外体験や姉妹校への留学を通して学んだことは大きく二つあります。一つは「旅を楽しむことで人生が楽しくなる」ということ、そしてもう一つは「言葉が流暢に話せなくても伝えようとする度胸」です。当たり前のことに感じますが、大学入学前に狭い世界で塞ぎ込んでいた自分には解らないことでした。最初の一つは今の仕事へのモチベーションに、次の「度胸」は、日常のあらゆるコミュニケーションにおいて自分の中で活かされていると思っています。

最後にもう一つ、たくさんの方から聞くことがあるかもしれませんが、自分のために多くの時間を使うことができる最後のチャンスが大学時代です。これは紛れもなく事実です。環境や事情が色々とは思いますが、少しだけ無理してでも外の世界を見ておくことで、きっと社会に出て挫けそうになった時、自分を助けてくれるものに会えると思います。

- 1981 群馬県前橋市に生まれる
- 2000 高校卒業後、進路に迷い、やりたいことを考えるため2年間を過ごす。二十歳の時生まれて初めて海外旅行(タイ)に
- 2002 高崎経済大学経済学部に入學
- 2003 姉妹校のあるアイルランド・ダブリンに3か月間短期留学
- 2005 就職活動終了後、姉妹校のあるドイツ・ルートヴィヒスハーフェン経済大学に約4か月間短期留学
- 2006 卒業旅行は大学の皆とシンガポール・マレーシア! JTB 関東入社。高崎支店配属
- 2013 法人営業群馬支店に勤務。法人営業第一チームグループリーダー



海外へ向かう飛行機に乗り窓から外を眺めると、みるみる自分の今までいた日本が小さくなります。普段過ごす自分の日常の世界はあっという間に遠ざかり見えなくなる。その時、あの一瞬にして見えなくなるほどの小さな空間で、挫折を感じたり悩んだりしていた自分が、とても小さく思えてきます。

そして辿り着いた場所は、見るもの聴くもの、全てが新しい体験に生まれ、生まれたばかりの子供に戻ったような、全てが不安と希望でいっぱいの世界。

日本にも外国人が増え、ネイティブな英語や中国語を学ぶなら留学なんて必要ないかもしれません。今回の特集で取り上げた英語研究部の皆さんは、留学経験者が少なくても弁論大会などで帰国子女に勝る結果を

出しています。この自信を基に、やはりいつかは留学を視野に入れている部員も多いようですが、弁論大会の遠征は実費なので、活動資金に多くが費やされ留学までに至らないという現状があるそうです。昨年からは始まった大学の海外語学研修支援制度は、この様な志の高い学生の皆さんに少しでも大学がサポートをするために行うものです。

留学で得られるものは語学だけではありません。特集では2人の留学体験者にお話を伺い、また、多くの留学生のアンケートやレポートを拝見しました。ある人は自分の将来を見据えて、ある人は現在の自分を見つめ直して…留学をするきっかけは様々ですが、数か月から1年程度、人生の中ではほんの少しの時間ですが、その短い時間で多くの人が留学

をきっかけに自分の心の成長を実感しています。日本の語学教室ではそこまでには至りません。

語学に自信がある人もそうでない人も、普段は何気なく使っている言葉の伝わらなさに悩まされ、生活習慣の違いに悩まされ、そしてそれが言葉で伝わらないもどかしさに自分の無力を感じ、言葉とコミュニケーションの大切さに気付いています。

そして、努力の先に通じあう力を得た後は、たくさんのお出会いと日本とは違う景色が、自分の中の世界の拡がりを実感させます。

大学の海外語学研修支援制度は、あなたの背中を少し押すだけです。後はあなたの努力次第。

世界は広い。それを実感してみたいかがでしょうか。

ふるさとを語る

日本編 その29

京都府京丹後市 「千年の都の知られざる一面 広大な砂浜の織りなす臨海部」

古都・京都。その海沿いに広がる全国的にも珍しい『鳴き砂』

皆さんがご存知の歴史的建造物が溢れる京都市から電車で3時間。日本海に面した京都府京丹後市。ここが私の故郷である。この街には自然があふれており、その中でも海との関わりが多い。代表的なものとして琴引浜の鳴き砂。歩く度に「キュッ、キュッ」という不思議な音が鳴る砂である。日本全国見てもこのような海岸は稀であるので、この鳴き砂は国の天然記念物に指定されている。しかし、この砂は汚染に非常に敏感であり、ゴミ・油・タバコ等によって音が鳴らなくなる。だから、環境問題には小学校から授業の一環としてよく取り組んでいた。



長さ八丁（約872m）にも及ぶ八丁浜ビーチは海産物の宝庫

夏には八丁浜に関西の多くの観光客が海水浴に訪れる。この浜は多くのサーファーの方たちから好評であり、サーフィン日本選手権の会場となったことがある。冬になると多くの観光客が蟹・鮑等の海産物を求めて、この地に訪れる。冬の日本海の荒波から採れる海産物は絶品であり、中でも「間人（たいざ）ガニ」は幻の蟹であり、滅多に食べることが出来ない。そんな海産物さえある海の恵み豊かな街。

左上「間人ガニ」は味も絶品な高級品。一杯数万円もする。
左下：八丁浜から見る夕日はとても綺麗。
右：海岸の砂が鳴る「鳴き砂」がある琴引浜。天然記念物に指定されている。



同郷出身・野村克也氏の言葉 それが今の自分への指針となった

私の故郷出身で有名な方に元プロ野球選手・監督であった野村克也氏がいる。野村氏はかつて群馬県に講演に来た。その中で「監督の仕事は気付かせ屋」という言葉があった。自分の理論だけを選手に押しつけても、その選手はどうすればよいか解らない。選手自身に「そうか」という事を気付かせることで行動に移す事が出来る。今でこそID野球という代名詞で有名ではあるが、プロ野球入団時は全くの無名選手であった。常に弱点を分析し、解決法を考え、練習するという努力を怠らない姿勢が、45歳まで現役でいられた理由だろう。私は4月から社会に出るが、野村氏から学ぶ事は多い。社会に出てからも勉強しなければいけない事は多くある。自分で考え、行動に移す事。この気持ちを忘れずに常に精進していきたい。



ふるさとを語る

海外編 その28

ドイツ 「個性が確立された魅力的な国・ ドイツから見た日本とは」

自然と都市が共存するドイツ南西部 穏やかな気候に包まれる観光地

私の出身地であるルールは、周囲をシュヴァルツヴァルト（黒い森）や高い山々に囲まれている。緯度も日本の札幌とほぼ同じだが森や山などの周囲の自然環境の影響もあり、それほど冬の寒さは厳しくない。

地元ほど近くにライン川が流れ、日本のTOTOなどに匹敵する世界有数のシンクメーカー「GROHE」がある。北へ少し足をのばせば、観光地としても知られているバーデンバーデンという温泉地があり、観光客が保養地として訪れている。

ルールの街並みはどこも全体が綺麗に整備され、駅から伸びるメインストリートは歩行者天国になっている。その道沿いには沢山のカフェやバーが立ち並び、私もよく休日ごとに街へ繰り出していた。



ドイツ人の食に欠かせないビール！ 各々が地域独自の味を出している

ドイツのイメージとして良く挙げられるビールは広く人々に愛され、日本とは違い16歳から法的に飲酒が認められている。街のあちこちに小さな醸造所があるため、多くの銘柄や地ビールが存在する。私の地元でも特産の「ロットハウス」という銘柄があり、好まれている。

また地域によって味や種類も全く異なり、私の地域のものは特に苦味が強い。しかし北部では黒ビールが主流であるし、ミュンヘン周辺の南東では比較的日本のビールに近い味がするように感じる。

他にもドイツと言えばソーセージと言われるが、日本人が毎日お寿司を食べないのと同じでもちろんそればかりではない。美味しいものも紹介しきれないほど豊富にある。



日本語に魅せられて留学を決意 訪れた東京は想像を超えた別世界

元々私はフランス人の父とドイツ人の母を持つハーフであるため、外国語に強い家庭のなか、育つことができた。それが何か特別な事を学びたいという興味となり、あえて難しいとされる日本語を学びたいという強い思いへと変わっていった。

初めて訪れた東京はヨーロッパ全土と比べても全く違う様相だった。交差点に多くの人々がひしめき合い、店からの音楽が溢れるネオン街はまるで生きているかのようで、非常に衝撃的な光景だった。それは今でも私の目に焼き付いて離れず、改めて日本の素晴らしさを再確認する事ができた。

留学は日本でもドイツでも若者へ様々な刺激を与えてくれる冒険的要素が多分にある。今回の留学を通して日本人の平和的な人柄に触れられた事を良い機会として、帰国したあとドイツの社会へ出てからも存分に活かしていきたい。



左：シュトルベンツルム（コウツリの塔の意）はルールのランドマーク。中央上：地元・ドイツ南西部ルールの街並。中央下：ドイツでは有名なシュヴァルツヴァルト（黒い森）の夏。右：私が通うルーデヴィヒスハーフェン経済大学の東アジアセンター。

団体名	活動報告	団体名	活動報告
英語研究部 (E. S. S.)	英語での Debate, Discussion, Speech や、TOEIC の勉強をしています。	茶道部	茶道の精神でおもてなしの心を常として、日々精進しています。
英会話愛好会 (E. S. U)	週に 1 回外国人講師を招いて英会話をしています。	山野愛好会	季節ごとに山を登って自然に触れた合宿をしています。
映画研究部	主に映画製作ですが、PV や予告なども作ります。プロの映画撮影の手伝いを行うこともあります。	写真部	写真を撮ったり、部室で喋ったり遊びに行ったりしています。
演劇研究会	各部員が能力と有り余る個性を発揮しながら練習・準備を重ね、年 4 回ほど公演を行っています。	情報システム研究会 (TISS)	ウェブ開発や情報処理試験の勉強会開催、三扇祭での映像作品展示の他、産学連携もしております。
会計学研究部	春と秋の論文合宿や簿記検定前の勉強会が主な活動です。	書道部	書道展への作品の出品や、学内での書道作品の展示に向けて、日々練習に励んでいます。
華道部	お稽古・展示、学内外で生け花を広める活動をしています。	ハイキング部	月 1 回程度のハイキングを主な活動とし、BBQ などのハイキング以外のアウトドア活動も行っています。
観光研究会	旅行業務取扱管理者の取得と旅行をメインに活動しています。	美術部	年に二回の展覧会をメインに日々頑張っている活動をしています。
ギタークラブ	クラシックギターというギターを使い、12 月に行われる演奏会に向け、主に合奏を練習します。	文芸研究部	年に二回の部誌発行に向けて、日々活発な意見交換をしています。
棋道部	春季・秋季の将棋大会の参加、部内でのトーナメントを行っています。	放送研究会	ラジオ放送、三扇祭での PA、番組発表会などを行っています。
グリークラブ	アカペラや合唱等、ジャンル問わず楽しく歌っています。	法律研究会	公務員、宅建、行政書士などを目標に活動しています。
軽音楽部	学内外でのイベント、学祭でのライブなどを行っています。	漫画研究会	サブカルチャーを対象とした芸術活動です。
経済学研究部	経済に関する資格の勉強をします。あとちょっとの思い出作りです。	マンドリンクラブ	マンドリンという弦楽器を中心にオーケストラを構成し 12 月の定期演奏会に向けて練習しています。
経理研究部	資格 (簿記、FP) を取るべくみんなで集まり勉強しています。	モダンジャズ研究会	学内外でのイベント、ライブでの演奏です。
考古学研究部	グループワークでの遺跡見学、及びそれをもとにした部誌の発行です。	旅行研究会	Traveeeeeel!!!
政治経済研究会	国内外の政治・経済に関する討論や、公務員・資格試験対策の勉強会を行っています。	歴史研究会	年 2 回の論集発行、歴史検定の受験、夏合宿の実施です。

文化サークル協議会紹介

第 41 期文化サークル協議会本部議長団議長 観光研究会所属 地域政策学部 4 年次

みなさんこんにちは。第 41 期文化サークル協議会本部議長団 議長を務めております平野優太です。私は一年生の時、39 期本部で内会計という役職を、その後二年生では所属サークルの幹事長となり、2 年間、本部とサークルの両面から文化サークルを経験しました。私はずっと本部と関わりを持ってきたのですが、

多くの人は「文サ本部って何？」との印象を抱かれるのではないのでしょうか。文サ本部は、文化サークルがより良い活動を行えるよう、サポートをする団体です。公認団体は高崎市・後援会から補助を頂きながら活動をしているので、活動内容を見守る事も使命です。本部がどのようなものかを知って頂くために、

平野 優太さん

「OPEN!」というテーマのもと、開かれた存在になりたいと考えています。またテーマには「サークル同士が更に開かれてほしい」「外部へと広がっていく」との思いも込められています。多くの方々が交流する事で、更に文化サークルへの理解が広がれば、本部としてこれ以上嬉しいことはありません。

団体名	活動報告	団体名	活動報告
合気道部	私達は主に 4 限・5 限で稽古をしています。合気道って何なのと思った方は今すぐ体育館に入って右の武道場へ!	水泳部	水泳部は仲が良く、個人のレベルに合った練習でやりがいがあり、礼儀もしっかりしている部活です。
アメリカンフットボール部	アメフト部は三部昇格を目指し、高い意識で練習に臨んでいます。ぜひ、応援のほどをよろしくお願いします。	ソフトテニス部	現在、関東学生リーグにて男子は 7 部、女子は 5 部にいます。リーグ昇格を目標に練習に取り組んでいます。
空手道部	空手道部は心身を鍛えるために日々の練習に取り組んでいます。大会で結果を残せるよう精進していきます。	ソフトボール部	我々は関東学生リーグ一部に所属し、インカレでの上位入賞を目標に楽しくも厳しく練習に励んでいます。
弓道部	秋季リーグで女子が一部昇格をしたことで、男女共に一部リーグに所属し、精力的に練習に励んでいます。	卓球部	私たち卓球部は男女ともに関東リーグ 4 部に所属しており、3 部昇格を目指し日々の練習に取り組んでいます。
硬式庭球部	私たち硬式庭球部は学校のテニスコートで、月・水・木・土と練習していて、男女ともに昇格を目指しています。	バスケットボール部	日々の練習に励むことはもちろん、バスケ部は男女ともに仲が良かったため充実した大学生活を送っています。
硬式野球部	1・2 年生の選手 13 人という大変厳しい環境で、新チームがスタートしたが二部昇格を目標に日々猛特訓中!	バドミントン部	こんにちは!バドミントン部は週 4 回体育館で活動しています。男女仲良く、楽しくやっています(〇〇)
サイクリング部	山を登ったり遠くに旅をしたり...車やバイクじゃ得られない達成感がそこにある。まずは乗ってみよう!!	バレーボール部	バレー部は男女部共に新チームに移行し、試行錯誤の連続ですが楽しく明るくを目標に日々活動しています。
サッカー部	現在、北関東リーグに属している我々は今年も目標は優勝の 1 点において日々の練習に精を出しています。	ハンドボール部	私達ハンドボール部は、2 年生が中心となり、リーグ戦で 5 部昇格を目標に、活動しています。
直心影流剣道部	月・水・金の放課後に 2 時間ほど稽古しています。学生主体でメニューを組立て、全員で切磋琢磨しています。	ラグビー部	現在ラグビー部は全国地区対抗関東 2 区、北関東リーグに所属し、全国地区対抗大学大会を目指しています。
自動車部	ジムカーナという競技を行っています。部員数こそ多くはありませんが、全員で一丸となり活動しています。	女子ラクロス部	私たちは、誕生して 4 年目というとても新しい部活です。チーム目標である 3 部昇格を目指して頑張ります。
柔道部	今年度の北関東五大学戦では第 3 位に入賞することができました。これからも部員一同、精進していきます。	陸上競技部	陸上部は男女 51 名で活動しています。今年は箱根予選に出場、5 名が関カレ標準突破などの結果を残しました。
準硬式野球部	北関東準硬式野球リーグに所属しており、夏に行われる全国大会を目指して練習しています。	ローバースカウト部	春は 30 km、夏は 100 km の移動キャンプ!普段は体力づくりやボランティア!自己成長が目標です。
少林寺拳法部	私たちは、部員が少ないながらも練習を工夫し、技術の向上を目指して日々活動しています。	ワンダーフォーゲル部	我々は年に 5、6 回合宿を行っており、そのためのトレーニングでは全員が真面目に取り組んでいます。



体育会本部紹介

平塚 諒さん 第 47 期体育会本部代表幹事 柔道部所属 地域政策学部 4 年次

体育会本部とは何か?我々の存在や活動内容をご存じない方は多数いらっしゃると思います。ただ偉そうにしているだけの組織だと思う人もいるかもしれません。我々の活動は体育会員が部活動を通して心身を鍛え、社会に必要な能力を身につけることを手助けすることです。いわば体育会本部は部活動に励む学生達の

サポート役に過ぎません。また、大学内で最大人数の学生を抱える学生団体として大学・学生の発展に寄与することに努めています。大学というものは自由な環境であり、何に向かって打ち込むかは各個人で決めることですが、やりがいや充実感を求めるのであれば体育会は非常に魅力的です。仲間と一つの目

標に向かって汗を流し、試合で負けた時の悔しさ、勝った時の喜び・達成感を学べます。こんな喜怒哀楽に溢れた大学生活を送れることは最高だと思うので、より多くの人に味わってもらえるようこれからも努力していきます。

たか けい グラフィティ

たかけいグラフィティでは、毎回高経大生をリレー形式で紹介し
ます。前回紹介した学生の皆さんからお友達を紹介してもらい、たく
さんの方に登場していただくコーナーです。
質問項目は①お名前②学年③学部学科④出身地⑤所属クラブ、サー
クル、ゼミ⑥お気に入りアイテム⑦おすすめのお店⑧キャンパスラ
イフの楽しみ方です。
あなたの番にまわってきたら、ぜひご参加ください。



- ① 菊池 那弥さん
- ② 2年次
- ③ 経済学部
- ④ 栃木県
- ⑤ Cmas、メロンボール
- ⑥ 前かけとミトン
- ⑦ からさき：安くボリューム
たっぷりのオムライスがオススメ！
- ⑧ できるだけ沢山の人の関わりを
自分の世界が広がりますよ！



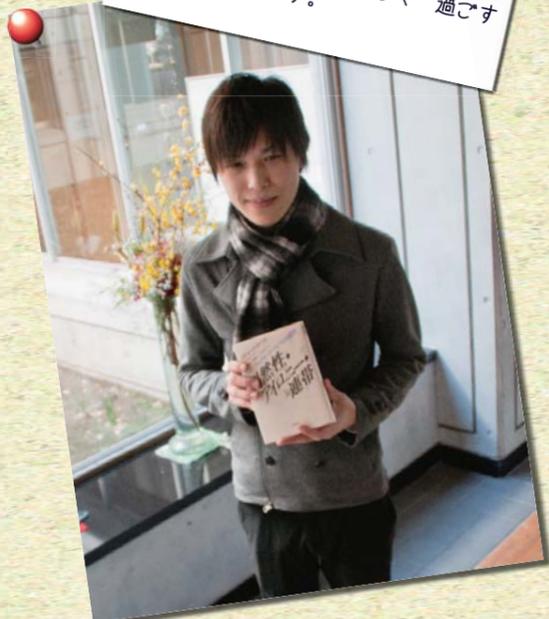
- ① 阿久沢 小春さん
- ② 3年次
- ③ 地域政策学部観光政策学科
- ④ 群馬県
- ⑤ バスケットボールサークル Sc@nty、
片岡美喜ゼミ
- ⑥ 東京事変の旗
- ⑦ はま寿司
- ⑧ 人との出会いを大切に！
周りの人に感謝する！(^o^)/



- ① 吉田 裕貴さん
- ② 3年次
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 長野県
- ⑤ ゼミナール協議会、尾形ゼミ、
サイクリング部
- ⑥ ロードバイク
- ⑦ ベルク飯塚店
- ⑧ 部活、サークル、バイトなんでもよい
からいろんな人との関わりを増やして
いくことが大事だと思います！

たか けい グラフィティ

- ① 佐藤 夏輝さん
- ② 4年次
- ③ 経済学部経済学科
- ④ 秋田県
- ⑤ 法律研究会、土谷ゼミ
- ⑥ 学術書コレクション
(入学から30万円ほど使いました。)
- ⑦ 今万人珈琲
- ⑧ 良くも悪くも“大学生らしく” 過ごす
ことだと思います。



- ① 遠藤 将光さん
- ② 3年次
- ③ 経済学部経営学科
- ④ 岩手県
- ⑤ 清水ゼミ 年中曇つまりなのズカカさま
点集業。特にこの点集業は効人のため
せん！特にこの点集業は効人のため
に入ります！
- ⑥ 元喜玄氣！！バイト先です！！
やらなきゃいけないことをしつかり
やってみる！



- ① 速水 千晶さん
- ② 3年次
- ③ 地域政策学部地域づくり学科
- ④ 長野県
- ⑤ 地域政策学部ゼミナール協議会、
村山ゼミ
- ⑥ ミッキーのバスケース
- ⑦ はらっぱ
- ⑧ 何事も挑戦してみる！

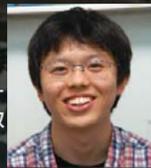


たか けい グラフィティ



写真部が行く ⑩ 今回の写真 地域政策学部 3年 飯沼 晃也 さん

カメラが発明されて以来、時代の動きをリアルにそして細密に切り取ってきた写真家たち。そんな写真家を夢見て日々技術を磨く若者たちの練習の場所として、高崎をテーマにフリー取材を敢行するコーナーです。一撮入魂、今回はどんな高崎を切り取って来るのでしょうか？



少林山達磨寺

縁起物の象徴として受験や選挙などで目にする「だるま」。高崎市で作られるだるまは「高崎だるま」と呼ばれ、生産量日本一を誇る。高崎だるまは、眉は鶴、髭は魚を表し、凛々しくもどこか愛嬌のある面立ちは、職人が一つ一つ絵付けをし、50数店あるそれぞれのお店で微妙に表情が異なる。

そんな「だるまの里、高崎」には、だるまのモデル達磨大使を祀り、上毛かるたに「縁起だるまの少林山」と歌われる少林山達磨寺がある。

少林山達磨寺では、毎年1月6、7日の2日間、「七草大祭だるま市」が開かれる。6日夕刻から深夜にかけて最盛時となり、灯籠を灯した長い石段に参拝者が長蛇の列を作る。

手足がかじかむのを我慢して参拝した後、参道に並ぶだるま店でだるまを購入したり屋台で温まったりすることで、新しい年の始まりを感じ、その年の福を願う家庭も多い。



INTRODUCE - 倶楽部紹介 -



体育会

no.72

直心影流剣道部



私達剣道部は、週3回稽古に励んでいます。短い時間の中で部員全員が集中し、切磋琢磨しています。部員には大学に入ってから剣道を始めた初心者もいれば、大会で上位成績を残した経験者もいます。各々のレベルは異なりますが、剣道を大好きな気持ちは全員一緒です。稽古中には、先輩後輩関係なくアドバイスをしあい、互いに高めあっているのが、初心者でも一から剣道を学べ、経験者も更に上達する事ができます。また剣道は「礼に始まり礼に終わる」という言葉どおり礼儀を重んじる競技なので、私達もその理念を大切にしており、剣道だけでなく礼儀作法やマナーも身につける事ができます。

私達剣道部は、正式には「直心影流剣道部」と言います。昔は一般的な竹刀剣道だけではなく、直心影流という古流の形の剣道をする部活でした。名前はその名残で、今でも竹刀剣道とは別に直心影流の形稽古をする時期もあります。形に関しては部員全員が初心者なので、合宿やOB行事を通して先輩方から熱心なご指導を頂き、卒業するまでには1人1人が理念をしっかりと理解し形をできるようになります。全国でも直心影流の形を受け継いで稽古している大学は少なく、部員全員で取り組んでいる大学は私達だけです。

伝統ある流派に触れあえる部活です。現在私達が活動できているのは、先輩方や体育会本部といった様々な方々の支えがあってです。その事を忘れず、日々努力し、稽古に励んでいきたいです。

幹事長 経済学部 3年 大槻 純平さん



文化サークル

no.73

観光研究会



みなさんこんにちは、観光研究会です。私たちの主な活動は大きく分けて2つあります。

1つ目は、「旅行業務取扱管理者」という国家資格の取得に向けた勉強会です。9月に行われる試験に向けて、前期に週3回の勉強会を重ね、夏休み期間中には2週間の集中勉強会を行います。この資格の一般合格率は例年30~40%であるのに対し、我がサークルの合格率は例年80%以上を誇ります。今年度も、合格率8割を超すことが出来ました。毎年このような成績が残せるのは、資格を取得した1年生が上級生になったときに勉強会の運営を確実に引き継ぎ、1年時に得た知識を新1年生に還元することが出来ているからだと考えています。まだ歴史の浅いサークルですが、こうした良い部分を伝統として残していけるよう努めていきたいと思えます。

2つ目は、合宿や日帰りの小旅行で全国の観光地を訪れることです。毎年6月と12月に日帰りの小旅行、9月と2月に合宿を行っています。勉強会で学習した地理の知識をもとに行先を決めることもあり、他のサークルの旅行や合宿では味わえないような楽しみ方が出来ます。この2つの活動を主とし、勉強と遊びを両立させ、メリハリのあるサークル活動を行っています。ここ数年で部員数が急激に増え、現在では50名以上となりましたが、勉強するときはしっかりと勉強する、合宿などの行事は思う存分楽しむというスタイルを貫き、今後もメリハリのあるサークルとして在り続けたいと思えます。

幹事長 地域政策学部 3年 鶴野 将平さん

高崎市ソフトボールチーム実業団大会2連覇

学生グループ職員が所属

50余年の歴史を持つ高崎市役所ソフトボールチームが平成24年度全日本実業団大会男子の部で2連覇を成し遂げました。チームは全員が20代～40代の市職員で構成され、本学の学生グループ職員2名も所属しています。チーム全員で個別練習と週3回の全体練習とを重ねて今大会に臨んだ結果、このような実績を残すことができました。今年は前橋市で9月に開催される総合選手権大会に出場予定です。



公立4大学合同大学説明会(仮称)

6月16日(日)開催

公立4大学とは、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学、高崎経済大学の群馬県内の公立大学です。4大学間の単位互換を機に、県内及び近県の受験を控える高校生や保護者、高校教員を対象に4大学初の合同説明会を開催します。各大学の学長による合同パネルディスカッションや、学生による大学紹介などを行う予定です。

●開催場所：群馬音楽センター ●開催時間：13時から ●お問い合わせ＝教育グループ入試・広報チーム：電話 027-344-7584

◆現在予定している内容

プログラム	内容
第一部	パネルディスカッション
第二部	学生講演会

同窓会

http://www.takakeidai-doso.gr.jp/

同窓会・支部総会のお知らせ

今年度各地で開催される、同窓会支部総会の今後の予定をお知らせします。出身県、近県の方はぜひご参加ください。在学生も大歓迎です。なお、開催内容は決定次第、順次同窓会ホームページに掲載いたしますので、ご確認ください。●お問い合わせ＝同窓会事務局(学生グループ内)：電話 027-344-6262

総会名	開催日時	開催場所
桐生支部	未定(毎年4月下旬)	未定
高経大同窓会本部総会	6月22日(土)	高崎ビューホテル
富山支部	未定(毎年9月上旬)	未定
新潟支部	未定	未定
三重支部	未定	未定
石川支部	未定	未定
札幌支部	10月4日(金)	未定
静岡支部	未定	未定
京滋支部	6月8日(土)	京都ロイヤルホテル
広島支部	未定(毎年10月中旬)	未定
宮城支部	未定	未定
飯田支部	未定(毎年11月中旬)	未定
岩手支部	未定(毎年11月下旬)	未定
大分支部	未定(毎年11月下旬)	未定
関西支部	毎年11月第2土曜日	未定
四国合同支部	10月予定	高知

オープンキャンパス

7月と8月の2回開催予定

高校生、受験生やその父兄を対象に大学を開放し、大学、学部の紹介や模擬授業、進学相談、施設見学など、本学を体験できるイベントです。

●お問い合わせ＝教育グループ入試・広報チーム：電話 027-344-7584

◆開催予定日

回数	開催日
第1回	7月14日(日)
第2回	8月11日(日)



後援会

http://www.tcue.ac.jp/about/supporter/koenkai/

平成24年度 TOEIC 成績優秀者表彰

本学学生の英語能力向上に寄与するため、TOEIC 公開テストで700点以上を獲得した学生に賞状及び記念品の授与を行いました。平成24年度の表彰者は以下の方々です。おめでとうございます。

最優秀賞 800点以上(学年は2012年度)		
沼田 隼人さん	経済学部4年	
戴 思遥さん	地域政策学部4年	
阿部 亮吾さん	経済学部3年	
楊 磊さん	経済学部3年	
嶋田 晃士さん	地域政策学部3年	
難波 瑞樹さん	地域政策学部3年	他2名

優秀賞 700点以上(学年は2012年度)		
野田 亮さん	経済学部4年	
梅澤 美穂さん	経済学部3年	
大嶋 恭平さん	経済学部3年	
神山 幹英さん	経済学部3年	
粟野 聡記さん	地域政策学部3年	
齋藤 駿さん	地域政策学部3年	
田嶋 鮎香さん	地域政策学部3年	
内山 璃菜さん	経済学部2年	
中屋 優人さん	経済学部2年	
村上 壮人さん	経済学部2年	
木下 大地さん	地域政策学部2年	
松井 太一さん	経済学部1年	
生方 祐貴さん	地域政策学部1年	他5名

合宿などにご利用ください

◆保養券利用可能施設

施設名	連絡先
ゆうすげ元湯	027-374-9211
レークサイドゆうすげ	027-374-9131
はまゆう山荘	027-378-2333

上記3施設への宿泊を希望する学生に対し、保養所助成券を発行しています。●助成額＝4,000円

●利用資格＝本学在学生

◆厚生施設

施設名	連絡先
高経会館	027-344-1521
白馬セミナーハウス	0261-71-1164

教職員、学生、同窓会員等の皆様を対象とした、宿泊・研修施設です。

●お問い合わせ等＝後援会事務局(総務グループ内)：電話 027-344-7902 併せて上記アドレスの高経大ホームページ中、後援会ページもご覧ください。

図書館

http://www.tcue.ac.jp/tosyokan/

電子ジャーナルを活用しよう

昨年度より、学内から在学生が利用できる電子ジャーナルが新たに4つ増えました。(日経テレコン21、聞蔵、D1-law、Japan Knowledge)

電子ジャーナルとは、Web上で読める雑誌の電子版です。パソコン上でフルテキストを表示したり、データをダウンロードして印刷することができます。電子ジャーナルには24時間いつでも、研究室や図書館など学内のどこからでもアクセスできます。本学が契約している電子ジャーナルは全て図書館ホームページの「電子ジャーナル(学内専用)」のページから利用できます。

勉強やレポート作成、就職活動など、様々な場面で役に立てて下さい。尚、使い方や検索方法などご不明な点は図書館員にお声掛け下さい。●お問い合わせ＝研究グループ図書館チーム：電話 027-344-6266

各コーナー推薦図書のご紹介



学生選書コーナー	ティファニーで朝食を ほんとうにわかる財務諸表 国際金融のしくみ 池上彰の宗教がわかれば世界が見える
文庫コーナー	中公新書 ちくま文庫 日経プレミアシリーズ 講談社現代新書
TOEIC対策コーナー	TOEIC TEST 成功をつかむ条件 イングリッシュ・モンスターの最強英語術 TOEIC test リスニングの鉄則 はじめての新TOEICテスト全パート本



図書館イメージキャラクター「ちえふくろうとまな坊」

就職支援

就業力育成ネットワークを開催しました

平成22年度から、現役生が同窓生と交流することにより、仕事・社会に対する考え方、在学中の過ごし方などを考える機会として、「就業力育成ネットワーク・同窓生との交流会」を実施しています。今年度も東京、高崎の2会場で実施しました。

◆東京会場



10月20日(土)に東京ガーデンパレスで「就職支援交流会」を開催し、東京在住の本学卒業生が組織する「東京三扇会」6人の同窓生に参加していただきました。

参加した学生は6グループ「金融・IT・広告・メーカー・商社・人材」に分かれ、「OB・OGだからこそ聞ける企業や業界の深い話」、「就職活動の心構え」等を質疑・応答形式で相談に乗っていただき、これから始まる就職活動に備えました。

交流会終了後、東京三扇会総会に出席し、より多くの同窓生と交流して同窓生とのつながりを強固なものとし、有意義な時間を過ごしました。

◆高崎会場



11月17日(土)に本学7号館で「就業力育成ネットワーク in 高崎」を開催し、北は北海道から南は九州まで、全国から同窓生41人にお集まりいただき、「同窓生の自己紹介」

「出身地別説明会」「業種別説明会」「交流会」を開催しました。

学生は出身地別グループ・希望業種別グループに分かれ、同窓生から出身地の就職情報や、自分自身の就職活動体験談、仕事への取り組みを伝えていただきました。交流会では出身地の枠を超積極的に情報交換を行い、就職活動への不安を解消していました。また、このイベントは地方の学生には地元を知る良いチャンスになっています。

●お問い合わせ＝学生グループキャリア支援チーム：電話 027-344-6263

今回の表紙

入学式



これから始まる、今までとは違う生活に胸が一杯でもあり、新しいスーツに身が引き締まる思いでもある姿が、何とも初々しい新入生。成人一歩手前の姿は、式が行われる音楽センター前の、ほころび始めた桜と重なる。

経済学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
538	504	525	591	2,158
(129)	(138)	(128)	(137)	(532)

地域政策学部学生数

1年	2年	3年	4年	計
464	493	476	564	1,997
(174)	(176)	(193)	(192)	(735)

経済・経営研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
4	8	0	1	1	14
(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(4)

地域政策研究科学生数

前1年	前2年	後1年	後2年	後3年	計
15	15	2	3	5	40
(8)	(8)	(0)	(2)	(2)	(20)

数値は人、○内は女性数：2013年3月現在

